平成17年度第1回石狩市男女共同参画推進委員会

- 日 時** 平成17年6月6日(月)午後3時05分～5時08分
- 場 所** 石狩市役所本庁舎 2階 201会議室
- 出席者** 櫻庭委員長、木村副委員長、成田委員、四日市委員、中村委員、河野委員、初島委員(三浦委員、紙谷委員、高谷委員は欠席。高田委員は途中から出席)
事務局：佐々木部長、上田参事、田村主任、小貫主事
- 傍聴者** 1人
- 議 題** (1)平成16年度男女共同参画推進事業報告について
(2)平成17年度男女共同参画推進事業計画について
(3)「いしかり男女共同参画プラン21」改訂案について
(4)その他
- 資 料** 資料1 施策の推進内容別の実施状況(総括表)
資料2 男女共同参画関連事業の実施状況(H16)
資料3 平成16年度 男女共同参画推進事業の概要
資料4 平成17年度 男女共同参画推進事業の概要
資料5 審議会等女性登用率比較表
資料6 いしかり男女共同参画プラン21改訂案(別冊)
資料7 見直し箇所の新旧対照表(別冊)

事務局(上田):遅くなりまして申し訳ございません。今日出席いただけるという連絡をいただいて、まだ見えてらっしゃらない方がいらっしゃいますが、お時間になりましたので始めさせていただきます。これより平成17年度第1回の石狩市男女共同参画推進委員会を開催いたします。開会に先立ちまして、企画財政部長の佐々木よりご挨拶申し上げます。

事務局(佐々木):どうも皆様、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。4月から企画財政部長になりました佐々木と申します。本日から、この委員会も3人の委員さんが交代なさるといってございませぬけれども、この委員会には石狩市の男女共同参画推進の原動力として、日ごろから大きなご尽力を願っているところでございます。改めまして厚く御礼申し上げます。先週、昨年日本の出生率、これが過去最低を更新したというニュースがございましたが、子どもを産むとか産まないとかというのは、当然これは個人の自由に属することでございます。ただ、問題は、やはり子どもを産みにくいと思わせるような環境ですとか、女性にとって、たとえば結婚や出産というのが、それぞれの活躍の場を狭めてしまうという風に受け止められているのではないかと、そういったことが背景にあるのではないかと感じるところでございます。このような状況を変えていくた

めにも、今の社会を男女の隔てなく、より平等で個人が自立できるような社会に変えていく必要があるのですけれども、その意味でも、男女共同参画への取り組みというのはこれからも一層加速していかななくてはならないと感じているところでございます。石狩市は道内でも相当早い時期に男女共同参画への取り組みを始めておりまして、その意味では先進地ということもできますが、ただ社会の隅々にまで張り巡らされたシステムであるとか、国民一人一人の意識に関する問題ですから、単純に先にスタートしたから、ほかの自治体に先駆けて、アドバンテージを得られるといったような簡単なものでもないであろうと考えております。新たな課題を的確に捉えながらも、やはり時間をかけながら、地道に取り組んでいくということが何よりも必要だろうということで担当部長として改めて感じているところでございます。本日資料を提出しておりますプランの改訂案につきましても、先にこの委員会からいただいた提言を踏まえまして、このような観点から作成いたしましたものでございます。住民にもっとも身近な基礎自治体として、この先5年間、どういったような取り組みが必要なのかという点について、忌憚のないご意見をいただければと考えておりますのでよろしくお願いたします。最後になりましたが、今年は事務局担当の職員が全員代わりましたのでここでご紹介させていただきます。まず私の隣ですが、協働推進・男女共同参画担当の上田均参事です。

事務局(上田): 上田です。よろしくお願いたします。

事務局(佐々木): 続いて田村奈緒美主任です。

事務局(田村): 田村です。よろしくお願いたします。

事務局(佐々木): それと小貫陽子主事です。

事務局(小貫): 小貫です。よろしくお願いたします。

事務局(佐々木): 以上私を含めまして4人でフレッシュな気持ちで取り組んで参りたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

事務局(上田) それでは会議次第の2に委嘱状交付とありますが、このたび団体から推薦をいただいて委員をお願いしておりましたお三方が代わられましたので、この場でご紹介させていただきます。まず、札幌人権擁護委員協議会石狩部会から、榎本新一委員の後任として、成田啓子委員でいらっしゃいます。

成田委員: こんにちは。人権擁護委員榎本さんの後に一応推し出されてきました。普段は花川南小学校で子どもと親の相談員というのをしています。そしてもうひとつ、不登校の子どもたちと毎週金曜日rinkurで活動しています。私は人権擁護委員では高齢者と女性を担当していますが、自分の父親が91歳になって、入院したことで私の弱さをすごく再認識し、今になって介護をされてきた方に頭が下がる、そんな思いでいます。そこに男女共同参画の推進委員にさせていただくということは厳しいなと思っておりますが、よろしくお願いたします。

事務局(上田): 続いて、石狩市校長会から、齋藤眞志委員の後任として四日市孝委員でいらっしゃいます。

四日市委員：こんにちは。4月から紅葉山小学校でお世話になっております。齋藤校長会会長から引継ぎを受けまして、委員として出席することになりました。一からの出発ですが、よろしく願いいたします。

事務局(上田)：もうお一方、石狩商工会議所から、松下芳嗣委員の後任に高田満委員がいらっしゃいますが、今日札幌での会議に出られておりまして、終わり次第こちらに来ていただけるというご連絡をいただいております。委嘱状は、お席のほうに失礼ですがご用意させていただきましたので、ご査収いただければとお願いいたします。委嘱期間は、平成18年、来年の9月30日までとなっておりますのでこちらもよろしく願いいたします。なお、三浦委員に置かれましては、今日所用のために欠席したいとのご連絡をいただいております。それでは委員長、進行の方よろしく願いいたします。

櫻庭委員長：櫻庭でございます。只今、新年度が始まって第1回目の委員会ということでフレッシュな事務局の方々、それから新しい委員さんをお迎えできて大変うれしく思っております。委員会のほうは先ほど佐々木部長さんのほうからお話、ご説明がありましたように、ちょうど石狩市の男女共同参画プランの10年計画のちょうど半分目の時期で、やっとプランの見直しをしたところで、今こちらの見直しの完成品が市さんの方で市民の意見をたくさんお聞きしながら、市さんも頭をひねりながら、見直しプランを完成させる間近でございます。そのような進み状況でございます。そういう状況にあるということだけご説明させていただきまして、早速今日の議事に入ります。皆様のお手元に、こういう枠のついた男女共同参画推進委員会ということで会議次第、下のほうに書いてある資料が机の上にあるかと思えますけれども、早速この資料に基づきまして、委員会を進めてまいります。それでは、議事4の(1)ですが、平成16年度男女共同参画推進事業報告と併せまして(2)の平成17年度男女共同参画推進事業計画この2つについて、事務局のほうから資料の説明をお願いいたします。

事務局(上田)：はい、それでは説明に入らせていただく前に、資料のご確認をさせていただきたいと思えます。先週、今回のプランの原案をまとめたものと、今日の会議資料を送らせていただきましたが、その後、変更の箇所が数箇所あったこともありまして、今日改めて一式机の上にご用意させていただきました。ホッチキスでとめたものが4つあるかと思えます。今委員長がおっしゃってくださいました、四角い枠のついているものには、資料の1から5までが綴じられています。また、別冊の資料として、プラン21と書いた、6月6日見直し案と入っているもの、また、資料7として、見直し箇所の新旧対照表というタイトルで、今回の変わった箇所が見え消しなり網掛けでわかるようなものをご用意しました。こちらは先送りさせていただいたものとすべて差し替えていただければと思えます。また、今回の推進委員の皆さんの名簿と、会議の設置要綱と、26日に行うフォーラムですとか、男女共同参画フェスタ2005と入ったちらしのもの、また、プランの21の見直し案訂正表というところで先日お送りした後に変わったところだけを抜き取って、わかっているような資料をお付けしております。4つの冊子を用意しています。で

は早速、資料1というところからご説明させていただきます。四角い枠のついている推進委員会のページをめくっていただいて、1ページ目に施策の推進内容別の実施状況（総括表）があります。これには基本目標、推進の方向、施策の推進内容というように体系化されているもので、各柱立てごとに、どの程度の割合で事業を実施したか、見てわかっただけのように作りました。総事業数は右側から3列目の一番下に353とあります。そのうち250の事業を実施いたしました。率ではおよそ70%となっております。前年度と比べるとほぼ同じ値となっております。具体の中身については、2ページ以降に資料2として、こちらちょっと小さい字で見づらいと思いますが、男女共同参画関連事業の実施状況、H16ということでこれには施策の推進内容の項目ごとに、どれくらいの実施率になっているかを具体的な事業名で表しております。たとえば、2ページの一番上の所に、男女共同参画社会の実現をめざす意識づくり、1として、家庭・地域社会における男女平等の意識づくり、(1)として、家庭における男女平等の意識づくりと、実施率は12分の7の58.3%となっておりますが、ここの欄の一番上に、男女共同参画推進週間という名前で講演会を開催します。担当課は私どもの協働推進・男女共同参画担当です。予算の欄には、16年度と17年度の数値、それぞれ1,160,000円、744,000円が、もうひとつ右の進捗状況というところにひし形の白と黒がありますが、これは白いほうが実施をしたもの、また黒い方が実施をされていない、そういう印でございます。また、今後の取り組みの方向としては、予算がなければ実施できないものはともかくとして、予算を伴わなくてもできるものについては、実施率の低いものをあげていくように、事業課に対して連携をして働きかけていきたいと考えております。続きまして、資料の3、こちらは12ページになります。平成16年度の男女共同参画推進事業の概要ということで表にまとめてあります。要点だけかいつまんでご説明させていただきます。まず、意識啓発事業として、一番上に男女共同参画フェスタ in いしかりということで昨年は、6月27日に国際交流協会と協力をして、パネルディスカッションを開催いたしました。また、コンテストということで「あなたへのはがき」いうのを募集したり、また、専門相談として、弁護士相談、子育て相談、DV相談と3つの企画をしましたが、このうち、事前申込のありました弁護士相談で2名利用がありました。また、男女共同参画セミナーは、今年の3月12日に元北海道副知事の佐々木亮子さんをお招きして、セミナーを開催したところです。また、職員の研修事業として、新任職員を対象に男女共同参画の取り組みについての説明を実施しました。また、13ページに入りますが、エンパワーメント事業ということで、共同参画自主研修の補助というのがありましたが、昨年は応募者がなく、残念ながら実施できませんでした。また、相談事業の女性相談としては、月1回、ないし2回実施しまして、昨年は延べ18回で6件の相談がありました。続きまして、資料4、14ページをご覧くださいと思います。こちらは17年度の推進事業の概要を取りまとめてあります。一番上の欄には今月末の男女共同参画週間にあわせまして、男女共同参画フォーラムをりんくる、総合保健福祉センターで開催することとしています。基調講演として、落語家の林家とん

でん平さんをお招きして講演をしていただいた後、パネルディスカッションでは、櫻庭委員長、木村副委員長、河野委員にパネラーをお願いして、お話しをしていただくということになっております。今回の基調講演で、落語家、男性の方をお願いしたのですが、どうしても、女性の参加が今まで多いように思うのですが、男性にも関心を持っていただければということで、人選を考えてみました。詳細については、広報の6月号でご覧いただいたかと思いますが、先ほどの資料と一緒にちらしを今回添付してあります。また、この推進週間にあわせて、パネル展や、本の特集展示を実施します。二つ目の参画セミナーについては、テーマはまだ決めていませんが、11月頃を目処に開催したいと考えております。職員の派遣研修、情報提供としては、従来同様に取り組んでいきたいと考えております。15ページ一番上にエンパワーメント事業ということで、自主研修の補助事業、こちら今6月号の広報で募集しているところなのですが、今年度はぜひどなたかに行っていたけるように、事務局で計らっていかうと考えております。相談事業につきましては、6月号の広報で大きくPRしたところですが、周知を心がけ、利用が多ければいいというものではないかもしれませんが、少しでも周知を図って、気軽に相談に来ていただけるような仕組みを作っていきたいと思っております。ちなみに4月、5月は各1回ずつ実施して、それぞれお一人の利用がありました。推進体制としては一番下の段に当委員会のことと、行政推進会議の実施状況、また、今後の予定を記載しております。事業につきましては限られた予算の中での取り組みになりますが、打ち上げ花火的なものではなく、先ほど部長からも申し上げましたが、地道な取り組みによって意識づけを浸透していくように力を入れていきたいと考えております。以上で雑駁でしたが、資料の1から4までの説明を終わらせていただきます。

櫻庭委員長 ありがとうございます。膨大な資料の内容なのですけれど、大変いい形にまとめてご説明がございましたけれども、ご質問、ございますか。

(質問なし)

櫻庭委員長：これは大変な事業量です。これは事業をやったかやっていないかという実施率ですね。

事務局(上田)：はい、そうです。

櫻庭委員長：実施率は100%から0%というのもありますね。

事務局(上田)：はい。学校での取り組みのところで、ここは事業課の捉え方もあると思っておりますが、特に性教育のことにに関して、見方によっては人権尊重とジェンダーに敏感な視点に立ったということのを重く捉えると、そこまでのことはしていないということになります。実際の教育現場では、日常的にそういったことは行われているのではないかと考えております。

櫻庭委員長：捉え方がとても難しいですね。

事務局(上田)：そうですね。解釈が。

櫻庭委員長：前回もやはりご質問も出ましたし、事業課のほうではなかなか、ここに書

かれた思い通りの事業の実施ではないということですか。

事務局(上田):ここまで踏み込んだというか、改めて人権尊重を考えたというか、人権尊重自体には取り組んでいると思うのですが、この定義でいくと、実施したと言いづら
いのかもしれません。

櫻庭委員長:早速ですけれども校長会からの四日市先生、学校における、男女共同参画
観に立ったという学校運営の推進、言葉どおりに読むのか、実際、実態としてはいろいろ
な授業の中で当たり前に取り組まれているという面もあるかと思うのですが、この辺の
捉え方がやはり100と0が並ぶと本当に0なのかということは少し気になります。いか
がなものでしょうか。

四日市委員:はじめての会議でどんな中身で申し上げればいいのかわかりませんが、
も、学校としてはたとえばすぐ、目に見えてわかるのは今まで継続してやってきている男
女混合名簿ですか、それがまずひとつありますね。

櫻庭委員長:はい、ありますね。私どもも承知をしております。

四日市委員:それについては学校の規模等によると思うのですが、かなり進んで
いるのではないかと考えています。うちの学校でも行ってありますし。

櫻庭委員長:そうですか。

四日市委員:子どもの名前を呼ぶ時に、全員に「さん」をつける。「君」と「さん」では
なく全員に「さん」をつける呼び方。これもやっていると思います。子どもに関して、具
体的にわかりやすい話ではそういうところですか。教科書のいろいろな記述の面で詳しくは
注意して調べていたわけではないのですが、指摘されるものはあるのかなと思います。
職場で言えば女性の妊娠に関する面での保護というか、そういう面はかなり慎重に行
われております。

櫻庭委員長:教職員さんのということですね。

四日市委員:ええ、そうです。全部というのは今お話ありましたけれども、当然のこと
で改めて意識しなくても日常的にやられているという意味も含まれているのかなと思いま
す。やっていないということではないと思います。

櫻庭委員長:無意識の中で常にやってらっしゃるということですか。

四日市委員:常に、日常生活の中で毎日のように行われているというように私は考えて
おります。

櫻庭委員長:そうすると先生のあれは核になりそうですね。言葉というか文字表現とい
うものにすごく慎重に吟味されて理解されているからでしょうか。そういう意味ではブラ
ンの中身の文言というのもこういう範囲のもの、この文言に含むのだという例示がうま
く出せれば、現場ではそれだったら日常的にこういう内容のものもあるということを出
てくるのではないのでしょうか。人権尊重のことも書いてありますが、新しい方にばかりあ
るようでごめんなさい。成田委員いかがでしょうか。

成田委員:どの辺のことで言ったらよいのかちょっとわからないのですが。

櫻庭委員長：2ページが一番下のほうの欄に(2)となっていて、男女平等観に立った学校運営の推進ということで実施率は0%と。人権擁護という言葉と、ジェンダーに敏感なという文言が出てきて、人権擁護から見ますと、いろいろな活動や学校の中がテーマですけど、日常的にいろいろなところで取り組まれていますよね。

成田委員：やはり学校の中で人権を意識して、まず職員がどうなっていくのかということ。女性教職員のほうは組合の中で、もう30年くらい前から女子教育という分科会があって、その中で最初はまだ重箱の隅をつつくように、たとえば今でもかなり使われている「父兄」という言葉ですが、平気で使われている言葉でまだ死語にはなっていないですけども、30年以上前から学校では「父母」にしないかということでやっていますが、今は別れている家庭が多いためか父母と言っても合わない家庭があります。ですから私たちはもっと人権に配慮して「保護者の皆様」という言葉をできるだけ使おうとしています。女性はさすがに父兄という言葉は減ってきましたけれども、先生方の中には父兄、下手をするとプリントにも父兄の皆様と出て、驚いてしまうことがあります。それから、本当に女の子、男の子という区別、たとえば体育の時間になったら、先生が「おい男子、そのマット運べ」という感じで小さいときからそうやって、女の子男の子として育ててきたものが私も教育界にいたものですから、かなり責任を感じています。そういうことがお互いの人権を尊重しあうんだ、ということを今はかなりやっています。わたしの学校でもいじめがすごくあって、その辺が人として、どう見ているのかという部分で15日に法務局の方が来て、私も少し話をさせていただきましたが触れていこうかと。石狩の人権擁護委員として、子どもの人権をお互い認めていこうということで保育園で紙芝居とかいろいろな実践を今年もしていきたい。学校の中で校長会とかいろいろなところに頼んでですけどもやはり人権を意識した部分で出前講座をもっとやっていくということですねとか学校の中に入っていきたくないと声をかけている途中です。

櫻庭委員長：人権擁護委員会の中でですか。

成田委員：そうです。全道、全国的にいろんな学校に行くと、やはり人権を意識した、たとえばあなたが人権を無視されているなと思うことを書き出してみようよと、実践例で言うならば。そうしたら女の子は、私は女の子としてお座りしなきゃだめとか、あぐらをかいてはだめとかいろいろな、子どもたちが小さいときからやはり、スポットを当てていないと、大人になってから急にそういった意識を持つというのはなかなか難しいので、そういう育て方を学校現場などでしていきたい、していただきたいということで依頼をしております。

櫻庭委員長：ありがとうございます。学校といたしますと、初島委員も学校のご経験がありますね。

初島委員：そうですね。私の場合は高校生ですから、相当、そういう点で言うとある程度出来上がってしまっています。そういう風なことで高校生を見て行くと、やはりもっと早くというのを痛切に感じますよね。ですから遅い、ということはあってはいけないこと

なのですけれども、やはりそういったことというのは早ければ早いほどいいなと思います。私も自分の娘のことですが、玄関から入ってくる時に靴がばらばらだと、主人は「女の子なんだから」ということを言うのです。でもそうではないでしょう。男だろうと女だろうと揃えて入らなければいけない、揃えて入りなさい、という風に私も訂正しなければならぬから、後から2人でもめたりして育ててきましたが、そういう育て方がよかったかという、なんだかちょっと失敗作かなと思ったりもします。世間的、一般的に言えば、という感じがしないわけではありません。

成田委員：中学生、高校生になるとかなり出来上がっているということで男女をジェンダーに見ていこうとすると、意外に女の人のほうが封建的な部分があります。数年前にいた中学校では、その学校に限ったことではありませんが、男女交際が盛んですね。中一で妊娠しているというのがとても多くて、そうすると、相談室で私は何を机に置くかという、まず、性感染症と、それから妊娠ってどうしておこるのかというものを置いておきます。女の子も、あなたの好む女性になりたいという願いを持っていて、実際すごくセックスが多いですね。そうした時に男の子は、女の子の人権を大事にしないから、コンドームをつけない。コンドームを付けると気持ちよくないから。女の子は付けてほしいと思っても言えないんですね。私は中学校にいた2年間でどうなんだということで話してきましたが、意外に女の子も男の子も好き勝手だな、親もだなと思いました。結局、本当にまだまだ家庭の中でこれが入っていくためにはどうしたらいいのだろうと必死になって中学生とは語り合ったんですけれども、中学生には知識もないので。

初島委員：それは感じますね。やはり基本的な性の問題ってというのは、自分の人権なんだと思うんですけど、権利意識というか、それが本当に欠けていると思います。

成田委員：相手を大事にしないという。

初島委員：お互いにですね。ですから自分も大事にしない。だから相手も大事にできない、といった感じではないでしょうか。

櫻庭委員長：ありがとうございました。男女共同参画を行うというもっともっと色濃く、その中身のほうにお話が入ってまいりましたね。ありがとうございます。それではほかに何かご質問はありませんか。

木村副委員長：市として、教育委員会として教職員研修の充実ということが書かれていますけれども、何か計画はありますか。

事務局(上田)：今回プランの見直しについては教育委員会とも打ち合わせをしておりますが、個別の事業についての計画までは話をしておりませんでした。予算を伴わなくてもできるものについて、実施率の低いものについては少しでも上がるようにしていきたいと考えております。

初島委員：予算はついてますよね。

櫻庭委員長：はい。教育委員会のほうに予算はついてます。

初島委員：予算がついていて実施できなかったということですか。

櫻庭委員長：木村委員のおっしゃったのは15年度だったと思いますが、新しく石狩市の先生になった方への研修がありまして、そのときにひとつのテーマとして男女共同参画を持ち込んだのです。そのときに具体的な動きがあったものですから、少しでも門戸が開かれるように毎年繰り返し反復されると広がっていくのではないかと言う趣旨のご発言です。16年度はなかったのでしょうか。

事務局(上田)：研修自体はあったと思います。15年度はその機会にあいのりというか、そのときはランチオンディスカッションをされたということでしたよね。

櫻庭委員長：実際の授業を見せていただいて。

事務局(上田)：モデル授業をいくつか。

櫻庭委員長：私たちも2・3校回りました。またご意見があろうかと思えますけれども、この後の委員会の中でお気づきになりましたらご発言願います。では、次に進めさせていただきます。すみません、高田委員を。

事務局(上田)：冒頭でご紹介させていただいていたのですが、少し遅れてこれらということをお話していたのですが、今回新たに委員のほうを引き受けていただきまして、一言ごあいさついただければ。

高田委員：大変遅くなりまして申し訳ございません。出張に行って今帰ってまいりました。このたび商工会議所の専務理事に4月付で仰せつかりました高田と申します。男女共同参画委員のことにつきまして、以前経済部と一緒にこの仕事をさせていただいた記憶がございます。何か見直しの資料を見ておりますと懐かしく感じているところでございます。よろしく願いいたします。

櫻庭委員長：ありがとうございます。それでは本日の議事の(3)に入ります。いしかり男女共同参画プラン21改訂案について質疑に入りたいと思います。資料の説明をお願いします。

事務局(上田)：それでは資料の説明をさせていただきます。プランの見直し案につきましては、先週事前にお送りさせていただきましたので一通りお目通しをいただけたかと思えます。本日は案に対してご意見をいただく場にしていきたいということで、説明は簡潔にさせていただこうかと思えます。資料はお送りした後に、先週末何ヶ所か変更したところがございましたので新しいものと差し替えさせていただいております。まず、見直しの概要について先にお話をさせていただきます。今回の見直しは計画の中間年において国や時代の動きに対応した適切な施策を推進するために行うものであり、見直しにあたって昨年度、推進委員会で検討され提言をいただいたところです。現計画の後に整備された次世代育成支援対策推進法やDV防止法などの新たな法律や育児・介護休業法などの改正など、関係法令を踏まえながら施策の推進における主な事業について精査を行い適宜見直しました。特にフラット・イーブンの視点という提言をいただいた箇所についてはできる限り反映するように努めたほか、次世代育成支援行動計画や教育プランといった市の個別計画との整合を図るようにいたしました。説明のほうは別冊の資料6と書いてあります見直し案

6月6日と書いてあるこの冊子でいたします。この改訂案の8・9ページをご覧ください。こちらは計画の体系図となっております。ここでは変更のあった第3章の計画の内容のところだけを抜き取ってあるものですが、変更したところを網掛けで表示してあります。この8ページに基本目標として5つございます。これにつきましては目標の設定にあたっての背景や取り組みの方針を謳ったものですが、作成時に比べて大きく変わるものはないということで、基本的には現計画を踏襲するものとして一部の表現を修正しております。また、推進の方向として9ページにあります。ここでは家庭・地域社会における男女平等の意識づくりと学校における男女平等の意識づくりを統合したり、雇用の場における男女平等の環境づくりと女性の就業機会の拡大、これは中ほどにある網掛けですがこれらを統合して、当初16あった項目を14にしました。また、社会的援助を必要とする女性への支援というところでは、女性を人ということに今回改めました。本文については、基本目標と同じように課題や取り組みの方針を謳ったもので、施策の推進内容と密接な関連があることから、大きな変更はしておりませんが、意識調査などのデータの引用につきましては新しいものに置き換え、修正し、また一部を追加削除いたしました。一番右の欄の施策の推進内容ですが、ここについては当初項目が多かったことから内容の近いものをまとめるようにして、39あった項目を29に減らしました。基本目標の一番上にあります、家庭・地域における男女平等の意識づくりでは家庭と地域社会の2つに分けておりましたが、これを統合するなどしてまとめました。同じように女性の人権尊重の啓発と性教育の充実ですとか女性の就業と起業化の支援など7つの箇所を統合しました。主な事業の概要については時流を踏まえたものとなるよう、例えば新たな生活産業の創出支援ですとか特定事業主行動計画の推進、市民参加制度の活用、次世代育成支援行動計画の推進、新農業振興計画による農業従事女性への取り組みなど、市の施策推進を取り込みました。続いてこの冊子を使って何点か必要に応じてお話をさせていただきます。まず、13ページをご覧ください。ここでは推進の方向を当初、家庭と地域社会におけると学校におけるという2つに分けていたものを男女平等を推進する意識づくりと改めました。本文の中では下から5行目になりますが、学校生活における男女平等の意識が身につくようにということを文の中で改めております。また、14ページでは施策の推進内容の括弧書きの中で取り組みの姿勢を文章化してありますが、そこについても提言をいただいた箇所で充実した家庭生活を営むための学習機会を拡充するというように改めました。また、主な事業でも家庭教育関係講座とこちらも網がかかっておりますが、介護講座など教育部門のいくつかあった講座名を今回、教育委員会のほうでも事業を改善・拡充するというので改めております。また同様にこのページの下のかっこ2のほうでも取り組みの内容を修正いたしました。次に16ページをご覧ください。これも提言をいただいた箇所ですが、ジェンダーについての相互理解をより深める学習機会の充実ということで、あわせて主な事業のところも今回見直しました。ここにはフラット・イーブンの視点を反映するようにという提言をいただいた箇所です。生涯学習講座ということで今までいくつかの講座に分かれていたも

のを教育委員会ではひとつの生涯学習講座として個別に講座を開催するということになっております。次に18ページをご覧くださいと思います。ここでは女性の人権尊重についての意識啓発とその視点に立った性教育の充実とすることで取り組みの分かれていたものを統合したり、また下の欄の女性への暴力のくだりではDV法の周知啓発ということで新たに今回主な事業に追記してあります。20ページでも同じようにジェンダー女性問題に関する情報収集と広報啓発活動を一本化してまとめてあります。次に基本目標のところで23ページですが、ここでは主な事業として市民参加制度の活用というのを新たに盛り込みました。これは市の市民の声を活かす条例の中で意見を聞く機会を確立したものです。25ページでは、家庭生活、地域社会活動への男女の共同参画の推進ということで新たな事業としては中ほどに地域サポーターの養成ですとかNPO等への活動支援を盛り込みました。また、国際交流の部門では、講演会セミナーの開催ですとか外国語指導助手(AET)の招致というのを新たに加えております。続きまして28・9ページのところをご覧くださいと思います。基本目標の就業の場での取り組みですけれども、29ページの個別の事業のところでは網掛けの求人開拓員による制度の周知啓発ですとか特定事業主行動計画の推進、また職業紹介事業の実施や新たなものでは入札参加における優遇制度の検討というものを盛り込みました。網はかかっていないですが、中段に男女平等推進企業の奨励という項目がありますが、これについても提言をいただいたところで、17年度では要綱を改めて表彰の対象となるように事業課のほうでは考えております。30ページでは新たな生活産業の創出・支援ということで2007年問題に対する団塊世代の問題に対応する取り組みを、市では4月から検討を始めたところですが、こういった場面にも女性の起業化に有効な取り組みができないかと考えております。また、32ページをご覧くださいなのですが、労働環境の整備の面では、一番下の枠に網掛けが3つございしますが、農業に従事する女性への支援というところでは、市の農業振興計画を受けグリーンサポーター事業の推進や農産物加工グループの活動支援、女性農業者組織の強化などを盛り込みました。続きまして33ページの基本目標のところでは、特に子育て環境の充実に力点を置くよう事業の内容を見直しました。個別の事業としては35ページをご覧くださいと思いますが、ここに網掛けのもので休日保育や特別保育事業の充実、ほか在宅子育て家庭への支援事業を新たに盛り込んでおります。次に37ページでは、介護環境の取り組みを主に今回見直しであげております。1枚めくっていただいて推進の方向4のところでは社会的援助を必要とする女性への支援となっておりますが、ここにも女性だけではなく男性も含めた施策が占めていることから、今回女性を人と改めたところです。母子家庭のくだりをひとり親家庭としたり、家庭内暴力という表現を配偶者等からの暴力と言うようにここも適宜見直しております。また、40ページには個別の事業として医療費の助成ですとか、母子家庭自立支援給付金など新たに設ける制度のことを表記してあります。また、最後の基本目標というのは42ページ以降ですが、ここでは当初女性への健康支援について4つの項目に分けて母性機能の尊重や健康教育、相談の話、また妊娠・

出産可能期ですとか閉経期ということで分野を分けておりましたが、健康に関することということで一元にして今回構成を見直しております。また、一番最後のページ46ページですが環境保全への取り組みという点では、市の環境基本計画の策定を受けて、計画と見合うような事業をここに載せております。大変駆け足でお聞き苦しかった点もあるかと思いますが、説明のほうは簡略にさせていただいて今回の改訂についてのご意見をいただければと思います。よろしくをお願いします。

櫻庭委員長：どうもありがとうございました。このプランの見直しにあたって3月にこの委員会がお出しした提言を受けて、この網掛けをしたところをメインに見直しをされたというプランでございます。それぞれの委員のご関心を持っている点であればご発言があるかと思えますけれども、お気づきの疑問も含めて何かご発言をお願いいたします。プランができてから5年という時間が経過しておりまして、世の中の仕組みも意識もずいぶん変わって、それから行政の対応というのも新しいソースがこの中に入ってきていますけれども、変わってきていますね。根っことして男女共同参画の取り組みが結びついているかどうか。テーマがあまり大きく書かれてしまうと何もかも入っているということになるのですが、結局は男女共同参画を、例えば生涯学習講座と言ってしまうとたくさんジャンルはありますね。そうしたときに本当に男女共同参画を進めるという主な施策になるや否やという疑問が出てきてしまうのかなと思っております。生涯学習となるとすごいジャンルが広いですね。

事務局(上田)：今回、教育委員会のほうで女性教育講座とか分けていたものを一元化して生涯学習講座と新たにしたいと思っております。

櫻庭委員長：そうですね。ネーミングが開けてみなければ男女共同参画を推進する内容を持った講座かどうかというのはなかなか見えない。

事務局(上田)：何がというと個別になってしまうと思えます。

櫻庭委員長：担当セクションとのパワーゲームで男女共同参画のセクションが教育のほうに強くプレッシャーをかけていくと生涯学習講座のほとんどが男女共同参画になるかもしれないという大きな期待も持てますが、どうなのかなという逆もありえるのかなという、これは私の心配です。逆に言うと先ほど人権のご発言がありましたが人権に関する学校での教えもできるだけ幼いときからの家庭生活におけるときからの学習が大事だということになると全部生涯学習に入ってしまうような気がします。そこが難しいですね。それと櫻庭の発言でもうひとつですが、リプロダクティブヘルス/ライツが相当弱まった感じがするのです。これでいいのかとこれも疑問です。委員の皆様、お気づきの点がございましたらどうぞお願いいたします。

初島委員：細かいことですが、脱字というか、38ページの5行目になりますが、社会の一員として様々な場でこれまで培って「きた」か何かが入らないといけないのでは。

事務局(上田)：「培って」ではなく「培った」です。申し訳ありません。

初島委員：39ページのところですけれども、3行目に障害者が将来にわたって生活的、

経済的に自立するためには、という風になっていますけれども、この生活的という言葉はあまり聞いたことがなかったものですから。前の段階で働く場所があるかどうかとなっていますがそういうことであれば、社会的、経済的なのかなど。広辞苑で調べてみたのですが生活的という言葉が載っていなかったものですから。

事務局(上田): たぶん生活面でということだったと思いますが、ここは改めるようにしたいと思います。

成田委員: 改めたほうがいいですか。障がい者に限らず自立というのは大きく3つ。生活的自立、精神的自立、経済的自立というのがあります。そういう意味で障がい者じゃなくても、イコール経済的にもなりそうですけれども、普通にいえば自分のことは自分でできるようとか生活できる。例えば食事がきちんと作れるとか、そういうものに生活的というのが入っていくのではないかと思ったから、これに違和感は感じなかったんですが、どう解釈したらいいのか。

河野委員: 要するに普通の生活ということになると思う。障がい者も障がいを持ったまま生きていくということが生活になるわけだから、つまり高度に生きているとか高度ではない生き方とかそういうことがあるのではないかという解釈になるのではないですか。生活的というのはやはりおかしい。生活に的というのは誰かに援助してもらわないと生活できないような状態を言うのか、そうではないのならば言い方を替えないと。

成田委員: 理解しづらいことは、そうだと思います。

河野委員: この項目で生活的というのはおかしい。ほかに世の中で生活的って使いますか。

初島委員: 生活面での自立というのはいりますけれど。

成田委員: 生活的と経済的と、精神的がないのがおかしいですね。

河野委員: 経済的自立はわかりますよ。これは上級官庁から降りてきた文章をそのまま使ったのではないですか。

高田委員: 会議の流れがわからないのですけれども、この案がはじめてさらされたのであれば、ここでこれだけのものを文言も含めて議論するというのであれば次回までに内容を点検するというにできないかと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局(上田): 改訂自体が当初の予定より遅れているということがありまして。

高田委員: そういう諸般の事情がありますか。

櫻庭委員長: この6月の下旬というのが男女共同参画社会基本法という法律ができた時期でありまして、その強調週間というのが6月下旬となっています。今までの長いスケジュールから考えますと6月下旬に完成させたいという意向があるようです。高田委員のように今回初めて委員を引き受けてくださった方は、どこかでこのプランをご覧になったことがあったとしてもなかなか難しいと思うのです。ですから、それぞれのお得意分野ですとか興味をお持ちの分野だけでもご覧いただいてご意見を出していただけると大変助かるのですが。

高田委員：わかりました。

櫻庭委員長：今の39ページのところで「的」が続いている箇所ですが、出典がどこかにあるのか、もし無いのであれば通常誰もが見てわかるようにしたほうがいいと思いますね。

事務局(上田)：その点確認して、その位置づけがきちんとしたものでなければ社会的というように改めさせていただきます。

櫻庭委員長：社会的って言うちょっと器が大きすぎませんか。

成田委員：この生活的というのは障がい者の方が生活するうえで援助が必要とかそういうことではないでしょうか。社会的というよりは生活の面でということかなと。でも、こういう言葉はほかの人にはわかりずらいかもしれません。

初島委員：主な事業のところを見ても社会的という言葉が入っていますね。ですから、女性がもっと社会に出ましようと言っているのと同じような意味で捉えてしまったものですから、社会的なのかと思います。

櫻庭委員長：この39ページのところが障がい者が自立しなければいけないというジャンルがありますので、そのような方が経済的に自立していくためには行政的におっつけていくよということだと思います。ですから、市が取り組めるものというのが40ページにありますけれども、39ページの全体像とあってこないということはあるかと思います。生活面で自立するとうことであれば生活サポートの事業ですとかそういうものがこの40ページの中に入っていれば39ページの内容とあってくるのでしょうか。限定されたものでなければもう少しわかり良い言葉に替えていただいて。

事務局(上田)：はい。

初島委員：リプロダクティブヘルツのところは削ったのですか。

櫻庭委員長：女性の生涯というところが弱まった感じがしますが、もうちょっと力強いものですね。このままで市民が納得できるのかと思いますが。わからないことではないですね。

事務局(上田)：44ページの基本目標のところかと思いますが、事務局の考え方としては細分化していましたが、健康のことに関しては細分化するよりも一本化したほうがわかりやすいのではという思いがありました。括弧書きにもありますようにすべての年代においてという表現にして、あくまでも母性の保護の取り組みだということで取りまとめて、事業のほうにつきましては旧の区分をそのまま継承していますので、今言われているようにリプロダクティブヘルツの取り組みが不要だとかということではありません。

木村副委員長：18ページのところにもでていきますから、軽視しているとは思わないですね。

事務局(上田)：このテーマの取り上げ方には賛否あるかと思いますが、このプランを策定した当時、この取り組みが非常に重要なものという当時の委員さんの思いもあったと思いますので削除することは考えてはいません。

櫻庭委員長：変えられては困ります。基本的な骨格は変えないと言っていますから。大きな柱であれば変えないということ。

事務局(上田)：全編にわたって新たな事業を見直した中で、足しこんでいくような構成になっています。

櫻庭委員長：リプロというのは18ページでは考え方の普及ですね。そして43ページのところでは母性保護ということになっていてそれで十分なものでしょうか。最初にプランが作られたときにはこの考え方はまだ新しい言葉で、世界中の女性が自分自身を大事にしていきたいという深い考え方があったのではなかろうかと思うものですから、そのところを弱くしてしまっているのかなと思いますね。男女共同参画ニュースにも国連の動きの中で取り上げられていたので。

初島委員：ここだけの施策で母性保護の尊重というのがありますね。この母性というのは子どもたちのような将来の母性もあれば、今実際に産む世代の母性、それから過去に出産を経験した母性というのがありますから、少し狭く感じます。大事なのは将来母親になるべき可能性を持った子どもたちの母性が今非常に心配です。自分の体を大事にしないこともありますのでこのところは非常に狭い。

櫻庭委員長：そうですね。このところは非常に狭いと思います。もっと若い世代から必要かと。そうは言いながら、どう変えたら良いのかということになりますけれども。

初島委員：学校教育の中で専門家を派遣するといったような取り組みは考えられないのでしょうか。

事務局(上田)：事業としては十分に取り組めるものだと思います。

初島委員：教員の意識だけではなかなか変えられないものですし、私が札幌市で教員をしていたときにはそのようなことがありまして、意識付けという意味では非常によかったなと感じておりましたので、ぜひ考えていただければと思います。

河野委員：関連するのですが、テーマがいくつかありますが最初に学校の問題が出てきたのでそれにこだわっているのかと思いますが、つまるところ学校だと思います。私の孫を見ていても幼稚園の頃から男女の意識というのがありますね。大人が考えているようなことではないですが、男の子のほうが女の子にいじめられているのです。それが小学校の高学年くらいから逆転して、中学校になると男女別々の学校に行くこともあります。先ほど四日市先生がさん付けの話をしていましたが、自分が小学校に行っていたときの先生が男の子も女の子もみんなさん付けで呼んでいたもので、そういう動きはとても早い頃からあったのでしょう。ただ個別の先生の感性だけでやっていたことなので、学校教育の組織的に捉えていた話ではない。今だって学校教育の中でひとつのテーマとして位置づけされていることはないですね。それがすべての始まりだと思いますが。

四日市委員：単純に考えて「さん」で呼ぶという運動とか。

河野委員：そういうプリミティブな問題だけでなく、基本的人権というのはみんな知っていることだけれども、男女共同参画を推進するというのが例えば女の子はかわいらし

くなければいけない、それだけでいいと言って社会参画を男に任せていくというのではなくて、学校で例えば社会科の時間にやっているのかということであって、中学校くらいまでは男女問わず呼び捨てで呼んだりして性差がない状態だから、そういううちにきちんとした教育をやらないと会社に入ってからでは会社によってまったく違いますから、学校というのはどこまでできるのかが問題ですね。

成田委員：本当に痛烈な意見だと思います。私も含めて教育に携わる人があまりにも人権意識が希薄だということがありますね。自分自身が人として生きていくことの大切さについて学ばないで先生になって、意識の無い中でバラバラにやっている。今の学校で何が当てはまるのかというと性教育になるかと思います。だいたいどの学校でもきちんと計画してやっています。低学年は自分の体を知るとか、どんどんエイズなどで苦しんでいる人がいるということで、私は男の子って何、女の子って何というのを黒板に書かせて、お互いに必要ないのかということをやっていたらどちらかに限定されるものがなかったんです。というようにきちんと計画を立てないと先生一人ひとりの意識によって違ってきてしまいますから、きちんと見ていかなければいけないと思います。学校では性に関するものであればそれに焦点を絞ってやっていかなければいけないのでは。各年度でここを重点的にやるというものがあったほうがわかりやすいと思いました。

櫻庭委員長：このプランは男女共同参画のバイブルなものですから、あらゆるものがここに書き込まれているので、今年度はこのセクションでこの事業を重点的にやっていくというのは市の全体の調整と必要性から決めてやっていくことですね。

成田委員：では、そこに私たちがどういう関わりを持っていくかということなのですね。

櫻庭委員長：この委員会では例えば性教育の部分を学校でも家庭でもどこでもやっていくのがいいのではないかと意見を出したら、それを市がどのように実行していけばいいのかというアドバイスのものを出して、具体的な施策に活かしていけるようなご意見、提案、発言などを出していただくのがこの場所です。ですから、この内容を皆さんがオールラウンドプレーヤーであられるということはなかなか難しいことでして、それぞれがご関心を持っていらっしゃる部分とかでご意見を出していただければ一番ありがたいと思います。

四日市委員：かなり学校教育に関わる部分が強いですが、学校教育にも限界があるので。教育は家庭教育からすべてをひっくるめて、ともに課題意識を持って取り組まないと、今子供たちに課題意識が無いのは学校で道徳をやっていないからだと言われていますが、学校で年間35時間道徳をやったとしても、家でたった30分のワーストテレビ番組を見ただけで全部ひっくり返されてしまう。ですから、もっと長い目で日本の子どもたちをどう育てていくかということを考えないと学校にだけ頼っていくのは難しい。家庭の価値観と学校で教えていることが違うとどうしてもうまくいかない。

河野委員：学校の先生にお願いしようとは考えていません。学校はスキルだけでいいと思っています。先生にもいろいろな考えがあるでしょうし、実際やりたくないと思います。

ただ、学校の間を借りて何かできないだろうかと思えます。

四日市委員：家庭や地域の教育を高めるのも学校の責任というように言われると、一生懸命はやりますけれども限界があります。

櫻庭委員長：石狩は協働というテーマをもっていますから、地域の皆さんが地域での教育力をどんどん高めていかれると思えますね。今日、ご発言いただいていない中村委員、農業関係のことで何かありましたらご発言をお願いします。

中村委員：農業のことではありませんが、35ページの特別保育事業というのはどのようなものですか。

事務局(上田)：これは平成19年度から実施される事業と聞いておりますが、次世代育成支援行動計画の中に載っております、共働き世帯の就労体系の多様化に対応するための事業と書かれていて具体的な内容は書かれておりません。

中村委員：自分も3人の子供を保育園に入れていて、初めの頃は役所の就業時間と同じで9時から5時まででしたが、途中から7時半くらいから6時半くらいまでになって、農家に限らず働いているお母さんやお父さんにとっては、時間が延長になって非常に助かりました。聞いている話で心配なことがあって、財政事情もあるのでしょうかけれども、正職員の保育士さんがずっと採用されていなくて、今40歳くらいの方が最後だったと記憶しています。ここ20年近く正職員の保育士さんが採用されていない。若い保育士さんは全員臨時職員で対応しているようですね。その方たちも一生懸命やっけていて悪いとは思いませんが、いずれ正職員の保育士さんが全員リタイアされていったときに石狩市の保育行政はどうなってしまうのかと思っています。市は保育所を全部民間委託してしまうのかどうか。

事務局(佐々木)：将来的に市の保育体制をどうしていくかというのは、これから検討していかなければならない話ですが、従来のように何が何でも公設・公営というような時代ではなくなっているというのは間違いないと思えますので、どの部分を民間で、どの部分を行政でやっていくかの一番良いバランスを今後検討していく中で、その答えも出てくるのではないかと考えています。いずれにしても、今いただいたご意見も所管のほうに伝えて全庁的な中で考えていきたいと思えます。それから先ほど櫻庭委員長のほうから生涯学習講座というあまりにもジャンルが広すぎるというお話をいただきまして、それは確かにそのとおりだと思います。当然私どもとしても男女共同参画の担当としてそういう観点からの講座を開催してほしいという働きかけをそれぞれの所管のほうにしていかなければいけないと思っております。ただ、残念ながら今までそういうことが十分できていたかということになりますと、疑問な部分もあります。今まではそれぞれの担当職員の感性で男女共同参画の関心が深いような職員が持ったときにはそういうことができていたというのが実態に近いと思えますので、今年、数年ぶりに男女共同参画に関する庁内の連絡会議も復活しましたので、その場を使って庁内に対して十分働きかけをしていきたいと思っております。

櫻庭委員長：ぜひ全庁会議の力を使って、浸透させていくとどこかでそのテーマを使ってみようということにもなっていくと思いますのでよろしくをお願いします。

成田委員：40ページにひとり親家庭というのがありますが、先ほどの説明では母子家庭の言い方を替えたというように聞こえたのですが、もっと広い意味で父子家庭も入っているかとか、現場にいと母子家庭でも父子家庭でもなく祖父母のところにいるという子どももいますので、そういうのはどうなっているのでしょうか。

櫻庭委員長：それも含めてひとり親と言っています。祖父母や叔父、叔母など父母以外の保護者の方も含めてひとり親と言います。お気づきのことがありましたらなんなりと。お時間が足りないようですので委員から直に事務局のほうに見え消しか何かでお伝えしてもよろしいでしょうか。時間は限られると思いますが。

事務局(上田)：今日欠席の方も含めて、8日の水曜日までにご連絡をお願いします。

櫻庭委員長：大変短い時間ですが、6月8日までにこのプランをコピーして見え消して書いて事務局にお寄せください。

事務局(上田)：先ほど、母性の保護のところでおっしゃっていたのは、将来の母性の話をしたときに子どもたちの分が少し狭いのではないかとということと44ページのところで話されていましたけれども、子どもたちということになると18ページの人権尊重と意識啓発その視点に立った性教育の充実ということで、この中に先ほどおっしゃっていたリクダクティブヘルスから性に関する学習機会ですとか学校教育における性教育ということで、子どもたちのところはこの部分で取り込まれているかと思っておりますが、そういった部分ではいかがでしょうか。

初島委員：ここである程度のことは入っているとは思っていましたが、もうひとつ気になっているところがありますが、43ページの4行目「女性はその体に妊娠や出産の仕組みが備わって」というところで、妊娠や出産「等の生理的な特性から」とか、妊娠・出産だけではないということを加えていただけませんか。

櫻庭委員長：ここは見え消しで委員のお考えを書いて事務局にお出しください。時間不足で申し訳ありません。先に進めます。プランの見直しを終わったことにしまして、資料5の説明をお願いします。

事務局(上田)：資料の5として審議会等女性登用率比較表というのがあります。昨年の3月末と今年の3月末の登用状況を示しております。全体で40の審議会等があって、今年の3月末では455人のうち187人が女性ということで41.1%という数字、昨年に比べると1%程度の違いがありますが、これは誤差の範囲かと思っております。40%を超えているのは17年3月末ですと現員がないものがありますので、全体で38のうちの16が4割を超えております。プランの中では登用の目標値として50%を設定しておりますが、これはプラン策定時にすでに40%に近い数字だったことから目標値を50%としたところですが、現在の市の目標としましては男女の比率が6:4を目途にということになっておりますので、それを下回っているものについては構成を見直すのがいいかと

考えております。

櫻庭委員長：何かご質問はございますか。今日の議題にまったく関係の無いことでも何かありましたらぜひ。事務局から何かありますか。

事務局(上田): プラン改訂の今後のスケジュールですが、今日意見をいただいたものと、水曜日までに何かご意見がありましたらいただきたいと思います。10日に内部の行政推進会議がありましてそちらに今日いただいたご意見を取り込んで報告した後、今の予定ではパブリックコメントという市民の声を聴く手続きがありますので、意見があった場合はその取り扱いを検討した後、概ね8月を目途に改訂プランを公表できればと考えております。それから先ほどの17年度の事業でも報告させていただきましたが、今月の26日に男女共同参画フォーラムを予定しております。みなさまにおかれましてはぜひお越しただけたらというお願いをさせていただきます。それと次回の委員会ですが10月に厚田・浜益との合併を控えておりますが、この推進委員会の定員が15人ということですが、現員が11人で残りの4人分が合併後のことを考えてあけてある状況です。合併以降、両村から委員を新たに選任して、それからこの委員会を開いていただければというように思います。

櫻庭委員長：おおよそいつごろになるのでしょうか。

事務局(上田): 年内に開催したいと思っております。

櫻庭委員長：石狩市の18年度予算の締め切りはいつでしょうか。

事務局(上田): 来年の1月くらいになりますので、年内であれば予算を含めた話ができるかと思えます。

櫻庭委員長：12月は議会ですね。では11月中にやっしまわないと、委員が熱い思いで語っても予算が決まってからでは、事業に結びついていかないということになりますね。

事務局(上田): 合併前に先行して委員の募集をしておけば、もう少し前倒しできるかと思えます。

櫻庭委員長：できれば11月の開催を期待しております。これで第1回推進委員会を終わります。